

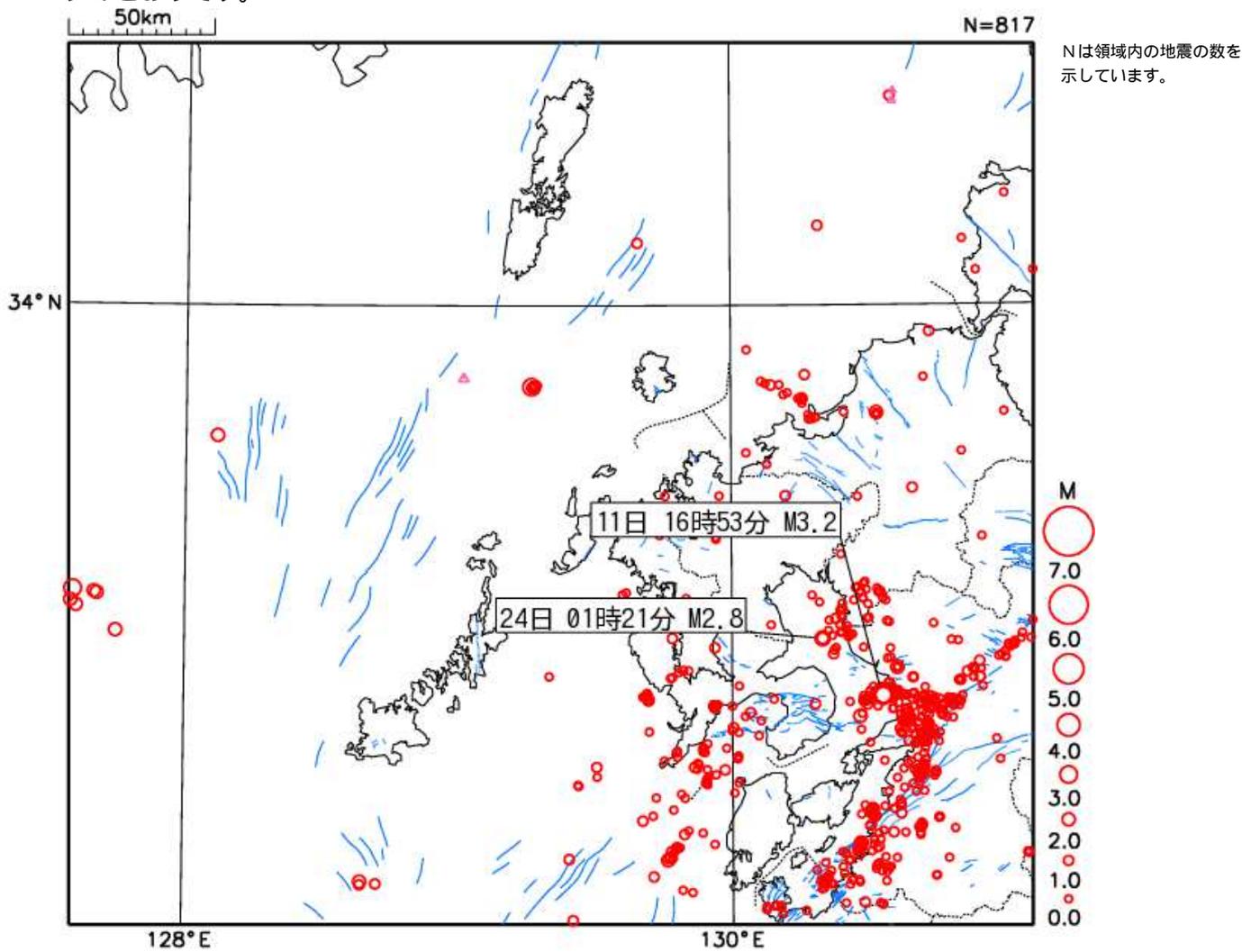
長崎県の地震活動概況 (2022年7月)

令和4年8月8日

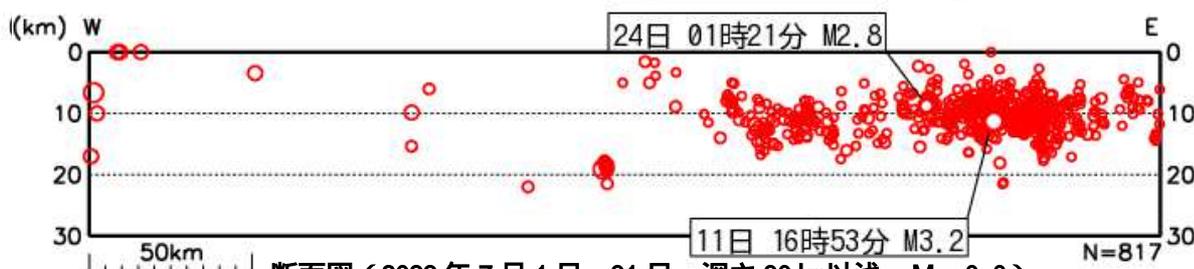
長崎地方気象台

地震活動の概況 (2022年7月)

7月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は2回でした(6月は4回)。詳細は2~4ページのとおりでです。



震央分布図 (2022年7月1日~31日、深さ30km以浅、M 0.0)



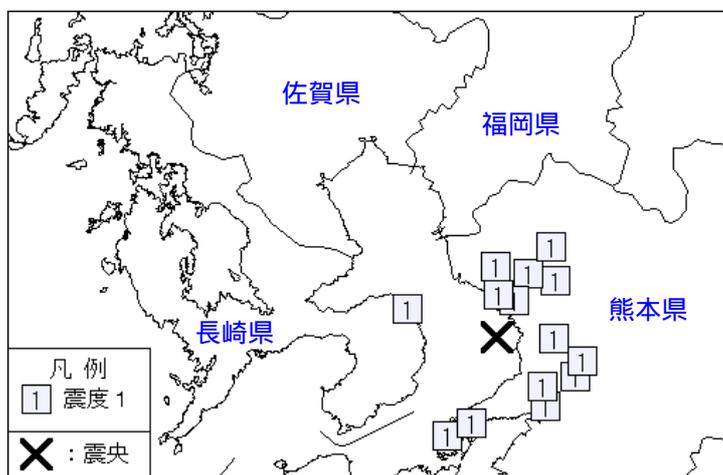
断面図 (2022年7月1日~31日、深さ30km以浅、M 0.0)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す(活断層のデータは新編日本の活断層による)。本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国家間地震学研究会(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

有明海

11日16時53分に有明海で発生したM3.2の地震(深さ11km)により、長崎県及び熊本県で震度1を観測しました。長崎県では島原市で震度1を観測しました(図1)。

今回の地震の震源付近(図2領域a)では、「平成28年(2016年)熊本地震」が発生しています。この領域では、2022年6月29日にM3.9の地震(深さ10km、最大震度3)が発生し、長崎県では雲仙市、島原市及び南島原市で震度1を観測しました(図2、3)。



7月11日16時53分 M3.2
図1 震度分布図(観測点別)

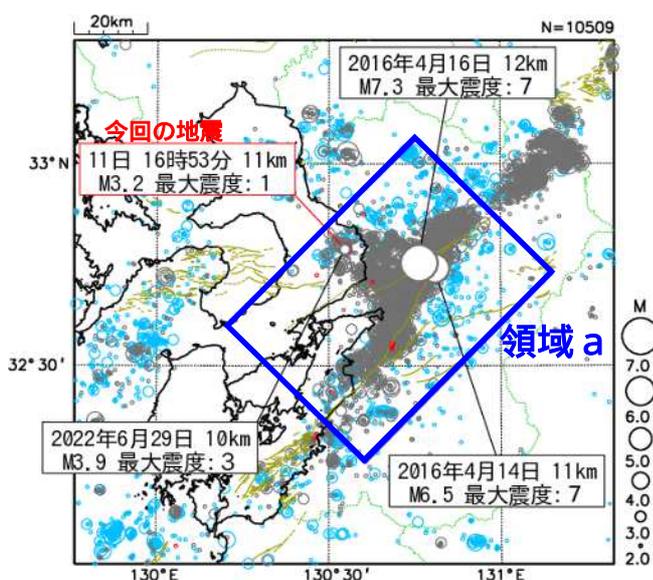


図2 震央分布図

(1997年10月1日~2022年7月31日 深さ0km~20km M 2.0)
2016年4月13日以前の地震を青色で、
2016年4月14日以降の地震を灰色で
2022年7月の地震を赤色で表示
図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

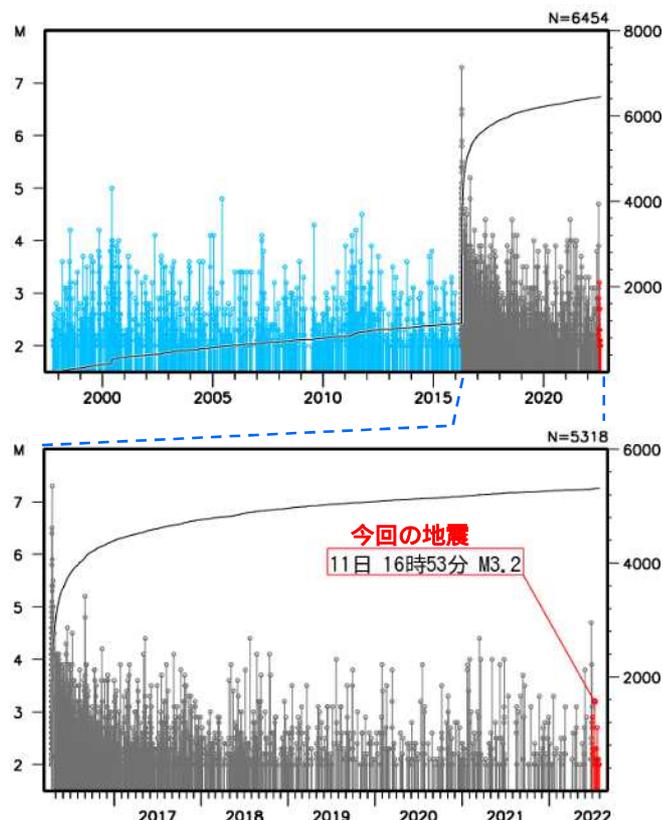
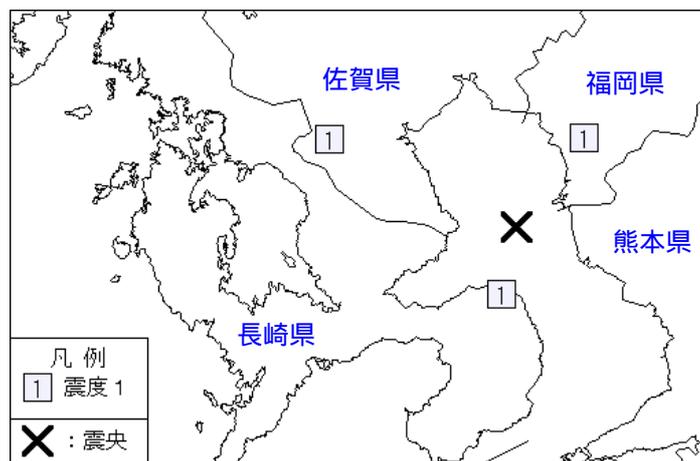


図3 図2領域a内の地震活動経過図及び回数積算図
(上段:1997年10月1日~2022年7月31日
下段:2016年4月14日~2022年7月31日)

有明海

24日01時21分に有明海で発生したM2.8の地震(深さ9km)により、長崎県、福岡県及び佐賀県で震度1を観測しました。長崎県では雲仙市で震度1を観測しました(図4)。

今回の地震の震源付近(図5領域b)では、M2.0以上の地震が時々発生しており、2021年1月1日に発生したM2.9の地震(深さ9km)により、長崎県では雲仙市で震度1を観測しています(図5、図6)。



7月24日01時21分 M2.8
図4 震度分布図(観測点別)

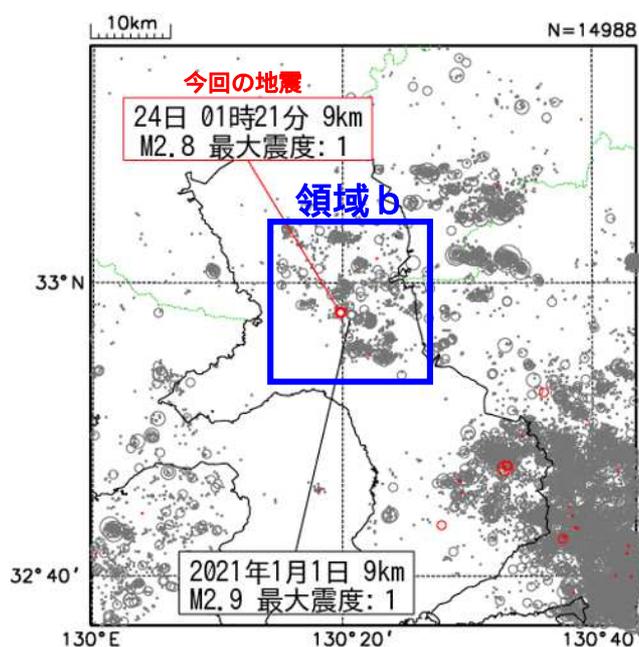


図5 震央分布図

(1997年10月1日~2022年7月31日 深さ0km~20km M 1.0)
2022年7月の地震を赤で表示
図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

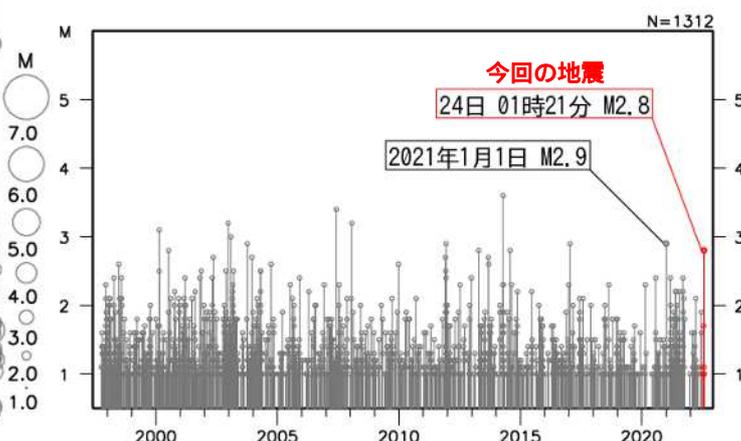


図6 図5領域b内の地震活動経過図

(1997年10月1日~2022年7月31日、M 1.0)

長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表 (7 月 1 日 ~ 31 日)

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2022 年 07 月 11 日 16 時 53 分 震度 1 : 島原市有明町 *	有明海	32 ° 47.3' N	130 ° 32.9' E	11km	M3.2
2022 年 07 月 24 日 01 時 21 分 震度 1 : 雲仙市国見町	有明海	32 ° 57.9' N	130 ° 19.8' E	9km	M2.8

注) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

「防災の日」と「防災週間」

～いつかくる災害に備えて～

9月1日は「防災の日」、8月30日～9月5日は「防災週間」です。

本期間は、国や防災関係機関をはじめ広く国民が、地震や津波等の災害についての認識を深め、これに対する備えを充実強化し、災害の未然防止と被害の軽減に資する目的で設けられています。この機会に、身近で起こり得る災害を再確認するとともに、**日頃からの備え**や大きな地震が起こった時の**とるべき行動**を確認するようにしましょう。

日頃からの備え

地震への日頃からの備えには、「家具の固定や配置の見直し」「水や食料等の備蓄」「避難場所や避難経路の確認」「建物の耐震診断や耐震化」などがあります。自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう。



とるべき行動

地震による強い揺れを感じた時や緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずに身の安全を図りましょう。具体的な行動は周囲の状況によって異なります。日頃からいざという時の行動を考えておきましょう。

家庭では	人が大勢いる施設では	屋外（街）では
		
<ul style="list-style-type: none">➢ 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する➢ あわてて外に飛び出さない➢ 無理に火を消そうとしない	<ul style="list-style-type: none">➢ 施設の係員の指示に従う➢ 落ち着いて行動し、あわてて出口に走り出さない	<ul style="list-style-type: none">➢ ブロック塀の倒壊等にご注意する➢ 看板や割れたガラスの落下にご注意する

いざという時の行動例

その他の行動例や緊急地震速報については気象庁のホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eww/data/nc/koudou/koudou.html>